

九州地区門信徒のつどい

第25回仏教壮年鹿児島大会

第25回仏教壮年鹿児島大会 実行委員長
鹿児島教区仏教壮年会連盟理事長

中原 雄一郎

10月19日(日)に、九州門信徒のつどい第25回仏教壮年鹿児島大会を川商ホール・鹿児島市民文化ホールにて開催いたしました。今大会は「いつくしみ 慈しむ」～まことのいのち ためさるとき～をスローガンに掲げ、当日には九州各地より1400名を超える方々にご参加をいただきました。

開会式では、鹿児島教区各組仏教連盟より選出された調声・讃嘆衆による厳かな勤行が勤まり、会場にはお勤めとお念仏の聲が高らかに響いていました。

記念講演①のご講師には、鹿児島教区伊佐組大嶺寺住職 星野元興先生にご出講いただき、「江戸時代、さつま門徒は何を信じたのか～かくれ念仏とは～」と題して講演をいただきました。真宗禁制が敷かれた300年間、命がけで念仏を繋いで来られた先人の方々がどのような思いであったかに寄り添うべく、弛まぬ深淵な「かくれ念仏」に関する研究事例についてお話をいただきました。

昼食後には、「南隅組雅楽会」、「瑠璃はぶいら(奄美島唄)」、「薩摩川内おどり太鼓」の3つのアトラクションが披露され、厳かな中に、和やかで華やかな雰囲気醸し出し、会場を盛り上げました。

記念講演②のご講師には、カトマンズ本願寺(ネパール)理事長 ウマ・ラマ・ギン先生にご出講いただき、講題「お念仏との出逢い」の記念法話をいただきました。釈迦の生誕地ネパール、カトマンズ本願寺における浄土真宗の教化活動についてお話を伺い、今日まで命がけでお念仏を繋いでくださった方々の願いが、鹿児島、九州、全国、世界へと繋がれている活動のお話を頂きました。

最後に、今大会総勢1,400人を超えるご参加のご協力をいただき、また、当日は温かい目で大会を見守っていただきました。大会スローガンにあります、～まことのいのち ためさるとき～とは、鹿児島別院にある「涙石」をみられた、本願寺勧学の梅原眞隆師が詠われたものです。先人の方々が、大切にされ、私たちに引き継いでくださいました「お念仏」を、これからは、私たち、仏教がお念仏申す朋友の輪を拡げつつ、引き継ぎ、世界へ広げていく決意を新たにすることができました。是非、機会あれば「涙石」の句を味わいにお越しく下さい。

